



## 財務省における現実への考察

令和7年3月18日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

財務省が、国家財政の健全性を与えられるなら、彼らはその責任を正しく行うものである。しかしアメリカの傀儡として、その責任を放棄するなら責任が問われるものである。

これらは財務省の解体を叫ぶ民衆と、消費財の廃止を訴える現実において、現状の世界経済の転換やインフレにおいて、財政の破綻や、国家の維持への必要性を共有する必要性は存在するのである。

これらは政治が国家の現実に対する責任を放棄するとき、責任の擦り合いが生まれる。誰の国家の現実への責任を取ろうとしないのである。

これが亡国の兆しである。ヒトラーはこの上で彼の王国を築き上げたのである。

これらへの考察は、国家が健全性を回復することは、一切の犯罪性を解決し、国家の運営への責任を明示し、それにおいて国家の運営の確立を実現することである。

これらは権利の標榜でなく、責任における新たな参加なのである。

これらは正しい世界を求めるとき、正しい国家がこれを与えることができるのである。

今日日本における現実には、卑近な責任転嫁や逃避などが肯定されるなら、正しい現実を求めるとき、真の政治家がこれを実現できるのである。

大乱世の雄と田中角栄は伝えたことがあるが、大乱世の雄は、国家の破綻を求め、その再建を行うことができるのである。

これらは現状の財務省への批判への個人的な見解である。これらにおいてすべての誤りを排除し、新しい国家システムと社会システムの育成し、新しい国家を与えることができるなら、国家は未来を得ることができるだろう。

これが人材を得ることが未来を得ることなのである。